

OCT検査が有用な疾患

緑内障

日本における失明原因の**第1位**(※)で、目の神経の障害によって視野が狭くなり、視力が低下する病気です。

40歳以上の日本人は20人に1人が緑内障とされています。

OCTでは、視野に異常が出る前に、視神経乳頭の形の変化や網膜神経線維層が薄くなっていることを検出できます。

糖尿病網膜症

失明原因の**第3位**(※)で、高血糖が続くと網膜の細い血管が変形し詰まると、糖尿病黄斑症などを引き起こし、視力低下につながる可能性があります。

OCTでは、黄斑部の変化を早期に確認できます。

加齢黄斑変性

失明原因の**第4位**(※)で、加齢により網膜の中心である黄斑に障害が生じ、物がゆがんで見えたり、見えにくくなる病気です。

OCTでは、黄斑円孔や黄斑上膜などの黄斑の病気も分かります。

※白神史雄：厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究 平成28年度 総括・分担研究報告書：32, 2017

検査結果レポート

